



※一般質問の内容は議員自身が11月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和2年11月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。



さいとう かずふみ
齋藤 和文 議員
(公明会)

令和3年度以降の結婚・出産・移住者への取組について

問 結婚新生活支援事業の検討は。

部長 婚姻届け出数は年々減少している。この支援事業は国と市で行うものではあるが、条件が厳しい。しかし、令和3年度から国が補助金額を30万円から60万円へ、対象年齢や年収条件の大幅緩和を検討しているとの報道があり、国の動向を注視しつつ、実施に向けて検討する。

問 不妊治療の現状と保険適用について。

部長 不妊治療は現在県下一の上限80万円を今後も継続。保険適用は協議や制度設計等課題が多く早くても令和4年度の見通し。保険適用までの対策は、報道等で確認できている厚労省支援方針では、所得制限の撤廃、助成額の増額、回数増加、事実婚も対象とする方針。

問 令和3年4月2日以降の定額給付金の予定と近年の出生数、出産祝金の創設について。

部長 定額給付金は国財源で行えたものであり、今後市として給付は考えていない。出生数は平成26年1011人、29年899人、令和元年度推計値は801人、2年は700人を下回る予想。

部長 出産祝金等についての課題は財源。政策として将来の富士宮市の出生数等大きく影響を及ぼすものになるので、議論を重ね今後スピード感を持って様々な研究をしていきたい。

問 移住者への取組については。

部長 現状の取組は、移住定住奨励金や移住相談会、移住・定住ポータルサイトの活用があり、令和2年度はテレワーク、ワーケーション等のニーズに対応した事業も進めている。新しい取組としては、宿泊施設やキャンプ場などでテレワークを体験し、本市の魅力を知ってもらう機会となるお試しテレワークを検討していく。さらに、テレワーク推進に向けた調査業務を委託しており、3月には結果報告予定である。



うえまつ けんいち
植松 健一 議員
(芙蓉)

新型コロナウイルス感染症の影響と対策について

問 義務教育が終わる中学3年生は高校受験や卒業に向け気持ちの切替えはできているか。

教育長 各小・中学校では新しい生活様式の下、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら学校行事や部活動を進めてきた。個人差はあるが多くの中学3年生が高校受験や卒業に向けて気持ちを切り替え学校生活を送っている。引き続き例年とは異なる学校生活の中で不安や悩みなどを抱えている生徒に対して丁寧な対応をしていくよう指導していく。

問 今後考えられる感染症対策としてマイアルコールの持参を啓発してはどうか。

部長 感染症の予防において、アルコールによる手指消毒は個人で行える有効な対策の一つで

ある。マイアルコールを持ち歩くことでよりこまめに手指などの消毒が行えるようになる。感染予防策の一環として市のホームページや広報ふじのみや等で市民に呼びかけていきたい。

問 新型コロナウイルスに対して抗菌効果を持つ塗布剤が開発されエビデンスも取得している。病院、学校、保育園、養護老人ホーム等、既存の公共施設に塗布してはどうか。

部長 光触媒作用によるウイルス分解効果を持つ塗布剤やコーティング剤が一定の効果をもたらすことは承知している。公共施設は現在職員が日に数回手指が触れたり、飛沫がかかる箇所をアルコール消毒している。塗布剤により光が当たるだけで除菌、抗菌効果が持続するとなれば職員の負担軽減にもつながる。今後費用対効果を確認する中で有効と判断できれば、各施設において導入の可否を検討していきたい。

市長 市内の業者がコロナウイルスを何とかしようという思いを持って取り組んでいるということに対して敬意を表し応援したいと思う。